

事例8：航空機部品製造5社で「五社会」結成！

● 5社連携の取組み ～メンバー同士で互いに工場見学、被災時の代替生産に備え～

■ 会社概要

企業名：有限会社田中工作所（幹事社）
所在地：神戸市西区 資本金：300万円
業種：精密部品加工 従業員数：42名
保険：火災保険

【五社会】

- ・上村航機株式会社（加古川市）
- ・株式会社日本エアテック（明石市）
- ・有限会社田中工作所（神戸市西区）
- ・ミツ精機株式会社（淡路市）
- ・株式会社中谷鉄工所（神戸市西区）



写真左・中：兵庫県広域防災センター
での防災訓練の様子

写真右：株式会社日本エアテック工場
見学会での五社会の皆さん

◇5社で連携して防災に取り組むことになったきっかけは

・5社はいずれも川崎重工業株式会社に部品を納品する金属加工業者。得意分野が異なるため、競合ではなく協力関係にある。コロナ禍で業績も落ち込む中、5社で協力して何かできないかと模索を始めたことが五社会のきっかけ。5社とも兵庫県下の企業のため、1995年阪神淡路大震災や2013年淡路島地震の経験もあり、防災についての危機意識は持っていた。中小企業基盤整備機構の専門家派遣事業を活用して2カ月に1回のペースで実務者レベルの研究会を重ね、2021年11月に連携事業継続力強化計画の認定を取得した。

◇どのような連携内容か

・被災時には、①人的支援（仕上げ作業者の派遣、または仕上げ業務の代行）、②代替生産（ただし顧客の承認要）、③運搬代行、を行う旨を五社会で合意済み。被害状況報告の書式や連絡方法も定めている。航空機部品は採用にあたっての検査・基準が厳しいため、被災してもすぐに他の生産者に切り替えることは難しい。そのため、災害時等にも事業を継続する取組みは、顧客である川崎重工業株式会社からも歓迎されている。

◇平時にはどのような取組みをしているか

・五社会メンバーでお互いに各社を訪問し、防災取組み事例の紹介、工場見学などを行う取組みを実施中。安否確認を電話で行っていた会社も、他社の事例でLINEを活用していることを知り、LINEによる安否確認の仕組みを導入することになった。他にも、自社の防災訓練に消防署員を招く工夫や、非常時用備蓄品（水、食料、医薬品等）の記録・管理方法など、互いの取組みを知ることで、各社が新たな取組みを始めるきっかけになっている。

・合同で防災体験学習を実施（兵庫県広域防災センター）。ガイダンス受講に加え、地震・消火器・煙避難体験などの体験学習を行った。

◇連携の、その先は

・五社会の防災の取組みは、地元神戸新聞にも取り上げられ、川崎重工業株式会社や近隣の同業者からも注目されることとなった。株式会社中谷鉄工所は、五社会での経験を活かし、神戸鉄工団地協同組合の連携事業継続力強化計画申請において中心的役割を果たすなど、ジギョケイ制度の普及にも一役買った。